

政策評価調書

政策名	1 豊かな自然環境と安全・安心な生活環境の創生 【自然・生活環境】	評価
総合計画頁	P27~36	B

関係部局	地域振興部、市民生活部、福祉保健部、建設部、農林水産部、防災局、消防本部
------	--------------------------------------

【1 政策の概要】

山・川・海の豊かな自然環境と美しい景観を次世代に引き継いでいくため、人と自然が共生するまちづくりを進める。あわせて、清潔で安全な生活環境を構築し、市民生活の安定や快適性・利便性の向上を図る。特に、地震・津波・台風などの自然災害に対しては、地域防災力の高い、災害に強いまち（人）づくりを進める。

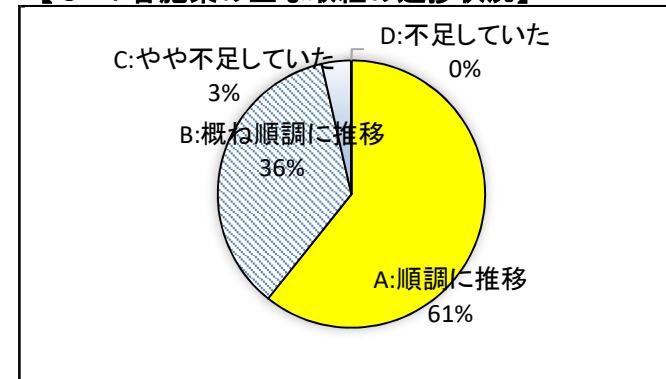
【2 政策を構成する施策の評価結果】

施策名	取組評価					指標評価					総合評価
	平均	A	B	C	D	平均	A	B	C	D	
1 自然環境の保全	A	2	3			B	1	1	1		B
2 快適な生活環境の確立	A	5				B	1		1		B
3 住宅環境の整備	A	1	2			A	3			1	A
4 公園緑地の整備	A	3				A	1	1			A
5 景観の形成	A	1	1			B	1		1		B
6 災害に強いまち（人）づくり	A	5	4	1		C		1	3		B
合計		17	10	1	0		7	3	6	1	B

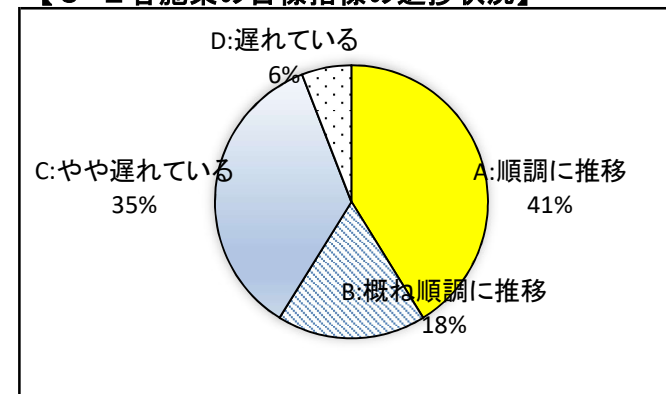
※評価の区分

A	順調	B	概ね順調	C	やや遅れている (やや不足していた)	D	遅れている (不足していた)
---	----	---	------	---	-----------------------	---	-------------------

【3-1 各施策の主な取組の進捗状況】



【3-2 各施策の目標指標の進捗状況】



**【4 評価が「D：不足していた」となった主な取組】**

施策名	-	施策名	-
主な取組	-	主な取組	-

**【5 評価が「D：遅れている」となった指標】**

施策名	3 住宅環境の整備			施策名	-		
指標名	一般住宅耐震化率			指標名	-		
実績値	70.9% (R1実績70.1%)	目標値	77.0%	実績値		目標値	
≪「遅れている」となった理由≫ 老朽危険空き家除却事業の対応や危険空き家の所有者等への除却等の指導助言を行ったことにより、一般住宅の耐震化率の向上の推移は見られるが、人口減や高齢化により一般住宅の耐震化改修は計画より遅れている。				≪「遅れている」となった理由≫			

**【6 政策の今後の展開】**

自然環境については、山・川・海の物質循環保全の取組を継続していく。ユネスコエコパークの取組については、宇目エコパークセンターを活用するとともに、市外在住者も対象とした一般向けの普及啓発事業や次世代育成のため市内の小中学生を対象とした「エコパーク体感事業」を実施していく。また、日本一の花のあるまちづくりの取組については、『さいき花の楽園構想実行計画』の各事業を実施し、各地域の花の名所づくりに取り組むとともに、「さいきオープンガーデン事業」への新規登録を推進し、市民の花のあるまちづくりへの一層の参画を図る。

快適な生活環境の確立については、ごみの減量化のための3Rの啓発や老朽化した廃棄物処理施設、火葬場の計画的な改修を進めていく。

住宅環境の整備については、人口減や高齢化等により厳しい状況であるが、個々の対策により住宅環境の整備の状況は徐々に向上している。今後も社会福祉の増進を目的として、住宅各施策の周知徹底と環境対策に積極的に取り組む。

公園緑地の整備については、緑の基本計画に基づき、市内では城山と濃霞山、振興局管内では鶴御崎園地、米水津空の公園、上浦天海展望台等の緑の保全や整備を実施する。また、景観の形成については、景観計画や景観条例について、市民や事業者、関係機関の理解が得られるよう市報やHPを活用した広報活動を行う。

災害に強いまち（人）づくりについては、地域防災力を強化するため、津波浸水想定区域だけでなく山間部地域を含めた避難訓練の実施の推進、防災・行政ラジオの普及率の向上、消防団員の確保に努める。また、河川沿いの人工林危険個所の伐採や河川に堆積している土砂の撤去を適正に実施し災害に強い山林・河川整備に取り組む。

## 政策評価調書

政策名	2 暮らしと産業を支える生活基盤の創生 【生活基盤】	評価
総合計画頁	P37~43	B

## 【1 政策の概要】

市民生活を支える水道、下水道、道路・情報インフラなどの整備や公共交通網の再編等を進め、安全で利便性の高い市民生活の確保に努める。あわせて、中心市街地の整備を進め、人が集う街の実現に取り組む。

## 【2 政策を構成する施策の評価結果】

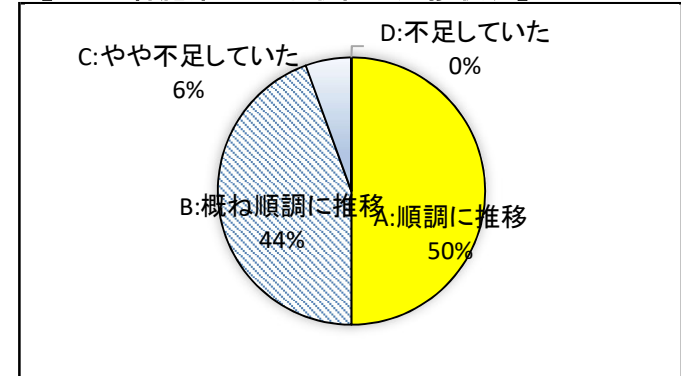
施策名	取組評価					指標評価					総合評価
	平均	A	B	C	D	平均	A	B	C	D	
1 水道の整備	A	2				A	1				A
2 下水道の整備	B		2			C		1		1	B
3-1 道路・情報インフラの整備<<道路>>	A	4	2			B	1		1		B
3-2 道路・情報インフラの整備<<情報>>	A	2				A	1				A
4 生活交通体系の構築	B	1	2	1		B	1		1		B
5 中心市街地の活性化	B		2			B	1		1		B
合計		9	8	1	0		5	1	3	1	B

※評価の区分

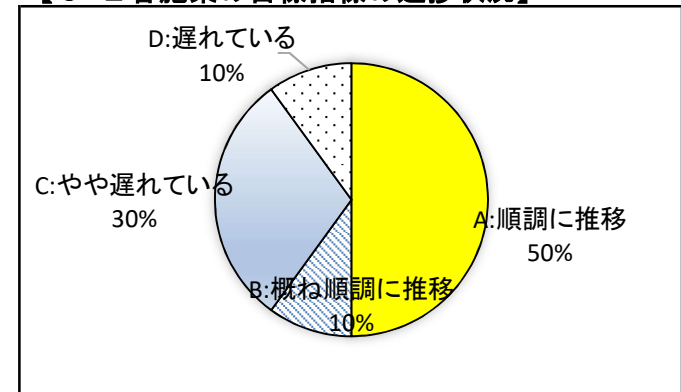
A	順調	B	概ね順調	C	やや遅れている (やや不足していた)	D	遅れている (不足していた)
---	----	---	------	---	-----------------------	---	-------------------

関係部局	総務部、地域振興部、建設部、農林水産部、上下水道部
------	---------------------------

## 【3-1 各施策の主な取組の進捗状況】



## 【3-2 各施策の目標指標の進捗状況】



#### 【4 評価が「D：不足していた」となった主な取組】

施策名	-	施策名	-
主な取組	-	主な取組	-

#### 【5 評価が「D：遅れている」となった指標】

施策名	2 下水道の整備		施策名	-	
指標名	汚水衛生処理率 ※（ ）は下水道（公共・農集・漁集・特環）の処理率		指標名	-	
実績値	69.2% (41.5%) R1実績68.0% (41.2%)	目標値	80.4% (51.6%)	実績値	
≪「遅れている」となった理由≫ 人口密度の高い地域に整備している集合処理（公共、特環、農集、漁集）の接続加入については、人口減少及び社会情勢等の変化（市街地の空洞化）や高齢者の単身世帯の増加等の影響を受けるため、目標達成には至っていない。			≪「遅れている」となった理由≫		

#### 【6 政策の今後の展開】

<p>水道事業について、水道の安定保持、老朽化施設の更新、地震等の災害への対応が課題とされている中で、今後も老朽化した鑄鉄管（CIP）を更新することにより管路の長寿命化を図る。</p> <p>下水道事業について、人口減少や少子化による処理人口の減少、高齢化並びに高齢者の単身世帯増加に伴う宅内配管の改造費用等の下水道接続費用の捻出、下水道整備済みである中心市街地の空き家や駐車場の増加による影響等を受けるが、今後も整備済み箇所の接続に関する普及促進及び個人設置浄化槽整備の補助を行い、水環境の保全、改善を図る。</p> <p>道路インフラについて、市道の整備、維持補修は、市民の要望が多いため、今後も必要性や優先順位を考慮しながら実施していく。また、令和3・4年度に着手する佐伯市都市計画マスタープランの改定の中で都市計画道路の整備方針、優先順位、廃止路線等について位置づける。残土処理については、大分県と連携した地域ニーズの調査等を実施し、残土の有効活用を検討していく。東九州自動車道4車線化の取組については、中央及び地方での大会等に積極的に参加し、提言活動等を行っていく。</p> <p>情報インフラについて、米水津地区は直営、八幡・西上浦・大入島地区は民営化により光化更新が完了した。引き続き計画的な整備を進めていく。また、ICT利用では着実に計画した施策を実施し、行政DXを加速する基盤を構築した。今後もAI、RPA、テレビ会議、モバイルデバイス等のデジタルツールを活用した行政DX施策を立案し実行する。</p> <p>公共交通については、コロナの影響により不要不急の外出を控えたため大きな打撃となった。路線バス及びコミュニティバスについては、買い物や通院、通学など生活を支える足として維持していく。離島航路については、人口減少による利用者の減少が年々顕著になっており、いかに観光客を増加させるかが今後の課題となっている。鉄道については、バリアフリー化により利便性を高めることができた。今後は、観光列車の受け入れなど利用者の増加を図る。</p> <p>さいき城山桜ホールと城下町観光交流館や歴史資料館等との連携により、大手前周辺地域の総合的な「人の流れ」をつくる事業の実施については、関係各課及び関係団体と連携し「佐伯市市街地グランドデザイン」で示された城下町エリアのテーマ及びゾーニングプランをベースに、継続課題である城山・山際通り～うまいもん通り・仲町周辺～さいき城山桜ホール～船頭町周辺の人の回遊ができる事業を展開する（大道芸フェスタ・アートマルシェ等）。また、さいき城山桜ホール周辺の広場を活用した人が集うイベント等の実施については、今年度、大手前商店会や中心市街地活性化協議会が実施したマルシェ等が盛況に開催され好評だったため、引き続き関係団体と連携し、今年度新型コロナウイルスの影響により開催できなかったアートマルシェと合同開催できるよう進めていく。</p>
---

## 政策評価調書

政策名	3 健康で安心して暮らせる共生社会の創生 【保健医療福祉】	評価
総合計画頁	P44~49	A

## 【1 政策の概要】

地域医療体制の整備や健康づくりの取組を推進する。あわせて、「地域共生社会」の実現に向け、多様な支援ニーズに的確に対応できる体制への転換を進めるほか、市民が世代や背景を超えてつながり、相互に支え合う地域づくりを進める。また、保育所の整備や保育士の確保の推進など、子育てしやすいまちづくりを目指す。

## 【2 政策を構成する施策の評価結果】

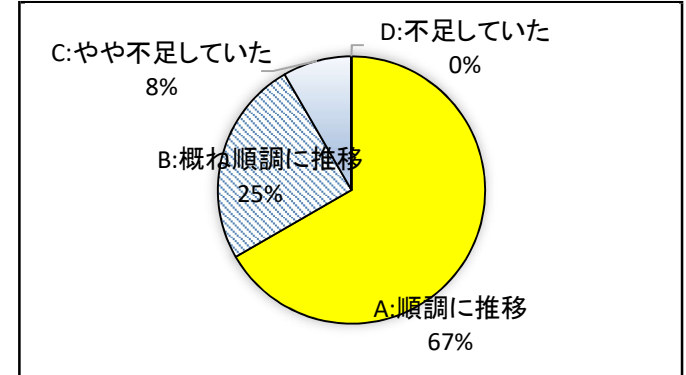
施策名	取組評価					指標評価					総合評価
	平均	A	B	C	D	平均	A	B	C	D	
1 地域医療と健康増進の充実	B	1	2	1		C			4	1	B
2 地域で支える福祉活動の推進	A	3				A	4				A
3 子どもたちが健やかに育つまちづくり	A	4	1			A	3	1			A
合計		8	3	1	0		7	1	4	1	A

※評価の区分

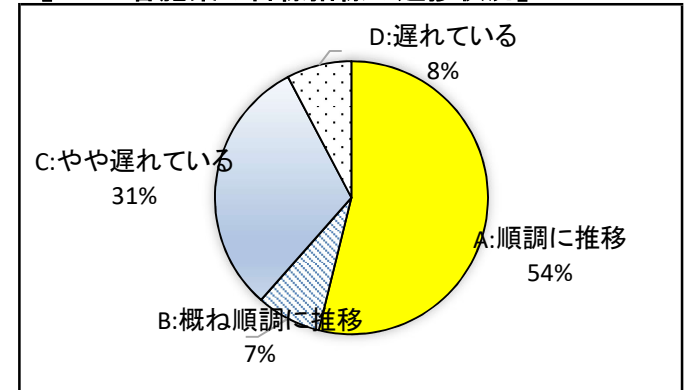
A	順調	B	概ね順調	C	やや遅れている (やや不足していた)	D	遅れている (不足していた)
---	----	---	------	---	-----------------------	---	-------------------

関係部局	福祉保健部、教育委員会
------	-------------

## 【3-1 各施策の主な取組の進捗状況】



## 【3-2 各施策の目標指標の進捗状況】



**【4 評価が「D：不足していた」となった主な取組】**

施策名	-	施策名	-
主な取組	-	主な取組	-

**【5 評価が「D：遅れている」となった指標】**

施策名	1 地域医療と健康増進の充実			施策名	-		
指標名	自殺死亡率（標準化死亡比）			指標名	-		
実績値	男 120.9 (R1実績117.2) 女 110.9 (R1実績 93.5) 〈平成27年～令和元年平均〉	目標値	男 100以下 女 100以下	実績値		目標値	
≪「遅れている」となった理由≫ 自殺予防のための各種施策に取り組んできているが、前年実績値（平成26年～30年平均【男117.2、女93.5】）からの推移をみると増加傾向になっている。自殺者を無くすためのより一層の予防対策への取組が必要である。				≪「遅れている」となった理由≫			

**【6 政策の今後の展開】**

地域医療体制整備については、県・佐伯市医師会・関係医療機関の協力が必要であり、今後も佐伯地域に則った医療提供体制の構築を図るため、協議・調整し、医療従事者の確保・養成の推進を図る。また、佐伯市民の健康寿命延伸のためには、特定健診等の結果に基づいた保健指導を医療機関等と連携しながら実施し、生活習慣病の発症・重症化予防を徹底することが必要である。

地域で支える福祉活動の推進については、社会福祉協議会との調整事項を一元管理する取り組みや、県が主催する『我が事・丸ごと地域共生社会推進人材養成研修会』に市職員と社協職員が合同で参加したことにより、現状の課題や今後の方向性について共通認識を持つことができた。今後は事業の進捗確認も共同で行いながら、問題解決に向けた取り組みを行っていく。また、令和2年度に策定した「障がい福祉計画（第6期）・障がい児福祉計画（第2期）」に基づき、引き続き共生社会の実現を目標として障がい福祉施策の更なる充実を図っていく。

子どもたちが健やかに育つまちづくりについては、引き続き待機児童ゼロに向けた保育士確保の取組や放課後児童クラブの支援など子育て世代の負担軽減の取組を行う。また、母子保健事業においては、子育て世代包括支援センター「さいきっず まある」の周知に努め、相談しやすい体制づくりを行う。

男女の出会いに関しては、地域の「お世話焼き」である婚活サポーターの育成や、婚活事業に協力してくれる会社の発掘を行うとともに、啓発活動などに注力していく。

### 政策評価調書

政策名	4 人が学び、人が生き、人が育つ教育の創生 【教育文化】	評価
総合計画頁	P50～55	B

関係部局	総合政策部、地域振興部、観光ブランド推進部、教育委員会
------	-----------------------------

#### 【1 政策の概要】

学力向上、体力向上、いじめ・不登校の問題に、重点的かつ継続的に取り組む。あせわて、地域と連携した学校づくりとして学校を核とした「ふるさと創生」の取組などを推進する。  
また、生涯学習や生涯スポーツに参加する機会の充実や青少年育成、文化芸術等についても、積極的に取り組んでいく。

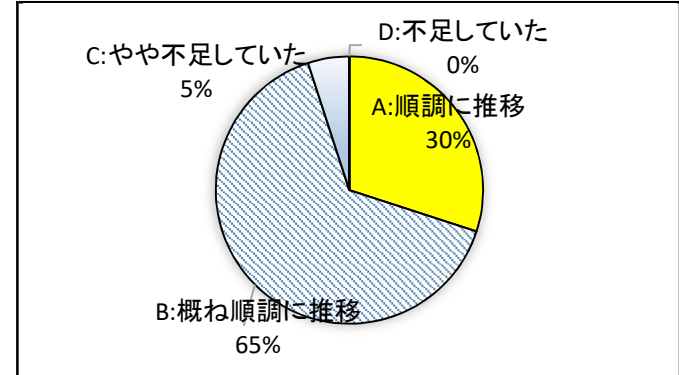
#### 【2 政策を構成する施策の評価結果】

施策名	取組評価					指標評価					総合評価
	平均	A	B	C	D	平均	A	B	C	D	
1 学校教育の充実	B	1	7	1		C			1		B
2 生涯学習の充実	B	1	5			B	1	1	1		B
3 社会教育の充実	A	1	1			A	2				A
4 市民文化の創造と文化財・伝統文化の継承	A	3				C		1		1	B
合計		6	13	1	0		3	2	2	1	B

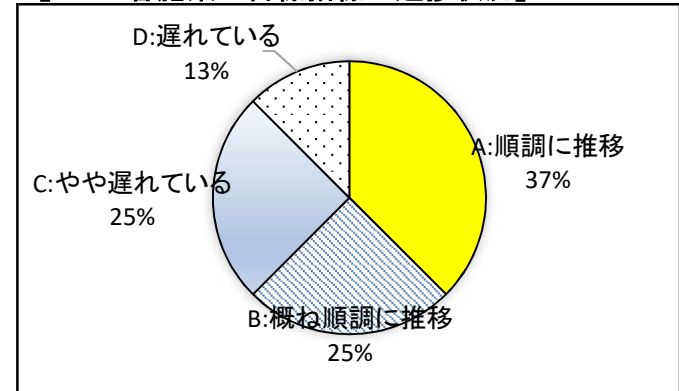
※評価の区分

A	順調	B	概ね順調	C	やや遅れている (やや不足していた)	D	遅れている (不足していた)
---	----	---	------	---	-----------------------	---	-------------------

#### 【3-1 各施策の主な取組の進捗状況】



#### 【3-2 各施策の目標指標の進捗状況】



#### 【4 評価が「D：不足していた」となった主な取組】

施策名	-	施策名	-
主な取組	-	主な取組	-

#### 【5 評価が「D：遅れている」となった指標】

施策名	4 市民文化の創造と文化財・伝統文化の継承		施策名	-	
指標名	歴史資料館、平和祈念館、国木田独歩館、蒲江海の資料館の年間来場者数		指標名	-	
実績値	8,566人 (R1実績16,167人)	目標値	24,000人/年	実績値	-
≪「遅れている」となった理由≫ 2022年度の目標値に対する令和2年度(2020)の目標値は21,348人/年であるが、実績値は8,566人と12,782人減となった。令和元年と比較し、歴史資料館(△6,656人)、平和祈念館(△1,464人)、国木田独歩館(△3,013人)、蒲江海の資料館(△285人)と、新型コロナウイルス等の影響により大幅な減員となった。			≪「遅れている」となった理由≫		

#### 【6 政策の今後の展開】

学校教育では、学力向上について、習熟の程度に応じた指導も含めた授業力の向上に力点を置き、学習内容の定着までを見据えた取組を進める。また、防災教育について、危機管理マニュアルの見直しと連動した日常的な防災教育を行う必要がある。

生涯学習では、公民館等の施設管理については、築年数が30年以上経過した老朽化施設が多く、計画的に改修・耐震化を行い、施設の長寿命化を図りながら、地区譲渡や施設の統廃合についても、関係部局と連携しながら検討していく。スポーツ振興の拠点である総合運動公園については、今後も新規の利用者促進と同時に現在の利用者のニーズを把握し、満足度をアップさせリピーターを増やしていく。また、東海大学陸上競技部や旭化成陸上競技部などトップチームの合宿誘致については、コロナ禍により先が見通せない部分であるが、動画による施設紹介やパンフレットの郵送等の営業手法を工夫し、誘致に努める。

社会教育では、「地域協育」・「地域協働」について、地域人口の減少、高齢化に伴い、校区コーディネーターの後継者育成が懸念されるとともに、協育ネットワークとコミュニティスクールの役割や機能の整理と連携が課題となっている。また、子どもの体験活動の提供では、自然体験活動や文化体験のほか、科学への興味関心を醸成する基盤づくりを設けながら、生徒数の減少の中で、校区を越えた交流体験活動により「豊かな心」や「社会性」を育む事業構築を行う。

文化芸術に関しては、文化芸術振興計画の基本理念である、文化芸術をツールとした持続可能なまちづくりに向けて、文化芸術の活動が、まちの活性化とつながる取組を行っていく必要がある。さらに、さいき城山桜ホールを核とした新たな可能性を示す未来志向の企画を市民と協働し、人材育成、地域の魅力の掘り起こし、交流人口の創出に取り組む。



### 政策評価調書

政策名	5 地域資源をいかした産業と観光の創生 【産業振興】	評価
総合計画頁	P56～69	B

#### 【1 政策の概要】

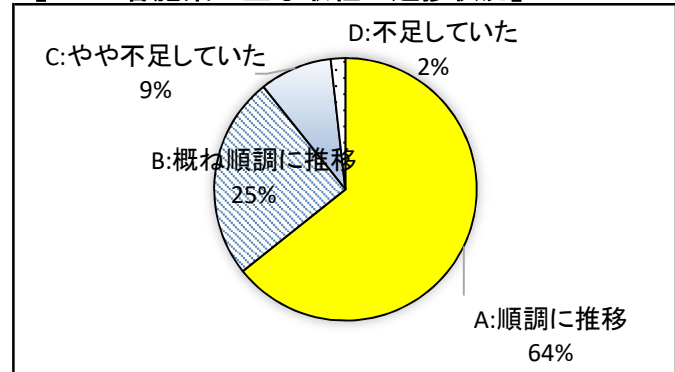
豊かな自然環境をいかした農林水産業の振興とその素材を活用したさいきブランドの確立に取り組む。  
 商工業では、造船業や鉄鋼業など地域に根差した地場産業の活性化や佐伯港などをいかした企業誘致の推進に取り組む。  
 また、課題である担い手不足を解決し、地域の活性化を図るため人材育成を推進する。  
 観光においては、これまでの観光業に農林水産業や造船業等、地域の産業を観光化することで観光産業への転換を図るとともに、他地域にはない佐伯の強みをいかし、ターゲットを明確にして情報発信や誘客に努める。

#### 【2 政策を構成する施策の評価結果】

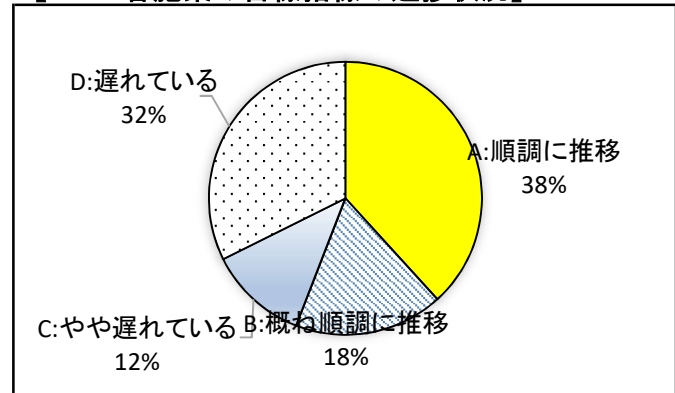
施策名	取組評価					指標評価					総合評価
	平均	A	B	C	D	平均	A	B	C	D	
1-1 農業の振興<<水田農業の振興>>	A	3	1			A	3			1	A
1-2 農業の振興<<園芸作物の振興>>	A	2	2			B	2	1		2	B
1-3 農業の振興<<畜産の振興>>	B		1	1		C	1		1	1	B
1-4 農業の振興<<耕作放棄地対策>>	B		1	1		C		1		1	B
2 林業の振興	A	3	2			B	3	1		2	B
3 水産業の振興	A	6	1			B	2			1	B
4 ブランド化・流通の促進	A	2				B	1	1	1		B
5-1 商工業の振興<<工業の振興>>	B	2	1	1	1	B	1	1		1	B
5-2 商工業の振興<<商業・サービス業の振興>>	A	4				B		1	1		B
5-3 商工業の振興<<産業人材の育成と確保>>	A	3	2			D				1	B
6-1 観光産業の振興<<佐伯の強みをいかした観光素材の開発>>	A	4				-					A
6-2 観光産業の振興<<国内誘客の推進>>	A	4				D			1	1	C
6-3 観光産業の振興<<インバウンドの推進>>	C		1	2		-					C
6-4 観光産業の振興<<おもてなしの情報発信の充実>>	A	3				-					A
6-5 観光産業の振興<<推進体制>>	B		2			-					B
合計		36	14	5	1		13	6	4	11	B

関係部局	地域振興部、観光ブランド推進部、農林水産部、教育委員会
------	-----------------------------

#### 【3-1 各施策の主な取組の進捗状況】



#### 【3-2 各施策の目標指標の進捗状況】



#### ※評価の区分

A	順調	B	概ね順調
C	やや遅れている (やや不足していた)		D 遅れている (不足していた)

**【4 評価が「D：不足していた」となった主な取組】**

施策名	5-1 商工業の振興<<工業の振興>>	施策名	-
主な取組	地場産業の海外取引の促進	主な取組	-
<<「不足している」となった理由>> ベトナム等の諸外国との経済交流の実施にいたらなかった。		<<「不足している」となった理由>>	

**【5 評価が「D：遅れている」となった指標】**

施策名	1-1 農業の振興<<水田農業の振興>>	施策名	1-2 農業の振興<<園芸作物の振興>>
指標名	集落営農組織の法人数（総数）	指標名	園芸作物の栽培面積
実績値	9法人（R1実績9法人）	目標値	16法人
<<「遅れている」となった理由>> 活動中の集落営農組織が13組織存在するが、「育苗」や「動噴防除」といった部分的共同作業を行うことが自然形となっている。また、組織の態様はいずれも高齢化しており、総合的に見て法人化への発展は厳しい状況にある。こうした状況を踏まえ、平成30年に「佐伯地域農業経営サポート機構」を設立し、担い手不在集落を支援する体制を構築した。今後は、法人化の目標は維持しつつ、サポート機構の組織の充実を図る中で、地域農業の維持・発展を目指すものとする。		実績値	R1見込み100.0ha/年（H30実績97.8ha/年）
		目標値	131.7ha/年
		<<「遅れている」となった理由>> R1目標103.2haに対し、100.0haの実績見込みで、目標を3.2ha下回る見込みであり、なおかつ、実績がH30目標の101.1haを下回っているため、D評価とした。 3.1ha未達成の内訳は、野菜（いちご△0.3ha、にら△1.7ha、にんにく△0.1ha、アスパラガス△0.1ha、なす△1.0ha）で△3.2ha。果樹（ハウスみかん△0.6ha、かぼす△1.0ha、ポンカン△0.4ha、デコポン△0.1ha）で△2.1ha。花き（キク+3.0ha、ホオズキ△0.9ha）で+2.1haとなっている。	

施策名	1-2 農業の振興<<園芸作物の振興>>	施策名	1-3 農業の振興<<畜産の振興>>
指標名	認定農業者数	指標名	出荷日齢体重（雌）
実績値	128人/年（R1実績133人/年）	目標値	153人/年
<<「遅れている」となった理由>> 令和2年度は、新規認定10戸（3法人、7個人）、更新33戸、離農・規模縮小による未更新15戸となっており、合計では前年度より5戸減少している。今後は大規模農家、認定新規就農者からの移行等により、認定農業者の確保に努めていくが、新規認定者数以上に高齢化で規模縮小する農家が増えている。		実績値	0.94Kg/頭（R1実績0.95Kg/頭）
		目標値	0.97Kg/頭
		<<「遅れている」となった理由>> 県、JA等の関係機関で連携し、月1回農家巡回により飼養管理についての指導を行っているが、基準年度の平成28年度から改善していない。	

施策名	1-4 農業の振興<<耕作放棄地対策>>	施策名	2 林業の振興
指標名	中山間支払交付金取組面積（総数）	指標名	椎茸種駒植菌数
実績値	70.3ha（R1実績81.6ha）	目標値	81.6ha
<<「遅れている」となった理由>> 取組面積は、高齢等の理由で大幅に減少した。		実績値	4,515千駒/年（R1実績5,240千駒/年）
		目標値	9,130千駒/年
		<<「遅れている」となった理由>> 生産者の高齢化と減少により椎茸種駒植菌数は減少しているため。	

施策名	2 林業の振興		施策名	3 水産業の振興	
指標名	低コスト簡易作業路		指標名	ヒラメ養殖生産額	
実績値	495m/年 (R1実績864m/年)	目標値	3,000m/年	実績値	10.9億円/年 (H30実績12.0億円/年)
		目標値	15億円/年		
≪「遅れている」となった理由≫ 生産者の高齢化と減少が影響し、予定していた程の作業道は開設されていない。また、作業道を開設しなければ搬出できないところでの原木に対する需要が少なくなっているため。			≪「遅れている」となった理由≫ カボスヒラメの普及や赤潮対策等の振興策により、生産量が持ち直した。しかし、全国的に単価が下落したため、生産額は目標に達しなかった。		

施策名	5-1 商工業の振興≪工業の振興≫		施策名	5-3 商工業の振興≪産業人材の育成と確保≫	
指標名	佐伯港の取扱量		指標名	市内就業者総数（製造業）	
実績値	67万t/年 (R1実績62万t/年)	目標値	200万t/年	実績値	4,409人
		目標値	6,000人		
≪「遅れている」となった理由≫ 佐伯港については、木材、バイオマス燃料（PKS）、天然石膏等を取り扱っている。新型コロナの影響はあまり受けておらず、特に木材の取扱量は活況である。しかし、野積場が満杯状態のため、取引の拡大が出来ない状況が続いている。その打開策として、野積場用地の確保が急務である。一方、佐伯港の取扱量としては、宿毛フェリーの運航休止（H30年10月）により、全体的な貨物取扱量は昨年同様、低迷状態が続いている。宿毛フェリーについては、航路再開の話はあるが、具体的な目途は立っておらず、目標年度までに佐伯港全体の取扱量が元に戻ることは困難である。			≪「遅れている」となった理由≫ 市外への人口流失により生産年齢人口の減少となったことにより、人材確保が困難な状況となっている。		

施策名	6-2 観光産業の振興≪国内誘客の推進≫		施策名	-	
指標名	宿泊者数 外国人宿泊者数（内数）		指標名	-	
実績値	103,423人 (1,745人) R1実績135,104人 (3,357人)	目標値	242,900人 (30,000人)	実績値	-
		目標値	-	目標値	-
≪「遅れている」となった理由≫ 市内宿泊施設について23.4パーセント減。要因としては新型コロナウイルス感染症により宿泊者の減少が主になるが、GOTOトラベルやおかえりなさいき券の効果により宿泊客の減少幅が少なくなった。			≪「遅れている」となった理由≫		

## 【6 政策の今後の展開】

農業の振興については、農村地域における高齢化と後継者不足による生産基盤の弱体化や農地の荒廃化等への対策が課題となっている。水田農業において、畑地化による高収益作物への転換と合わせ、美味しい米づくりによる生産振興に取り組む。また、「佐伯地域農業経営サポート機構」の充実による地域農業支援体制の強化に引き続き取り組む。園芸作物では、新規就農者、企業参入、認定農業者の規模拡大により園芸団地づくり計画に記載された11か所を中心に大規模園芸団地の形成を目指す。また、有機農業では、有機JAS認証取得を目指す農業者の確保・育成、農地確保、土づくりなどの課題に取り組む。

林業の振興については、国産材需要の高まりから、市場価格も高まり生産量は安定し、林業従事者も徐々に増えているが、保育事業に従事する担い手は不足することが懸念されるため、県の林業研修制度等の利用促進やOJT研修、就業環境の改善を図り、林業の担い手の育成に取り組む。椎茸生産では、生産量の安定化やコスト削減につなげるため、生産施設等の導入支援を引き続き行う。

水産業の振興については、養殖業における赤潮監視体制を維持するとともに、陸上養殖での酸素発生機や緑色LED照明器具の導入支援により安定生産を目指す。また、ICT等の先端技術を取り入れ、省力化や経営基盤の強化を図る。マグロ養殖は、伸びしろのある成長産業と捉え、赤潮被害を軽減する養殖生産のための実証実験を支援するとともに、漁港整備などによって生産基盤を強化し、生産量を伸ばす。漁船漁業については、種苗放流や漁場造成、藻場の保全活動に取り組む、漁場の基礎生産力の強化を図る。

ブランド化の流通・促進では、SNSやアナログ的な口コミによる情報発信や、郷土愛からくる佐伯出身の都市圏に在住するふるさとを応援する関係者の増加に取り組むとともに、認知度のある特産品の事業者の講演や専門家による相談会を実施し、生産者自身がプロモーション力を身につけるための支援を行う。また、海外輸出に向け、輸出量の拡大支援に取り組む。

商工業の振興について、工業では、テレワーク等に從事など働き方が大きく変化している状況を踏まえ、企業誘致戦略に掲げたオフィス系企業の誘致を促進するには絶好の機会である。自治体と企業のマッチングイベントの機会を誘致するための最良のツールと捉え、今後も継続して取り組む。商業では、創業セミナーや商工会議所、商工会のきめ細かな支援により創業件数が増加しており、今後も引き続き支援に取り組む。また、周辺部では商店の減少により高齢者の買い物が困難になっているため、引き続き移動販売事業者への支援を行う。産業人材の育成では、企業や就職希望者のニーズに合ったセミナーの開催や企業と求職者のマッチングを行い、就職に繋げていく。また、企業説明会・相談会開催事業への参加など、市内企業への収束の機会を提供する。

観光産業の振興については、「さいきツーリズム戦略2019-2023」に沿い、佐伯の歴史、文化、人を魅せるスローツーリズムの展開、スローフードとカジュアルフードを並行したフードツーリズムの推進、佐伯の自然と体験やアクティビティーを組み合わせたエコツーリズムの推進、地域産業を魅せるなりわいツーリズムの推進、総合運動公園やさいき城山桜ホールを活用した各種合宿や大会を誘致する文化スポーツツーリズムの取り組みを推進する。また、国内誘客では、重点エリアである福岡都市圏、大分市周辺、宮崎県を中心とした地域でのPR活動を展開し、確実な誘客を進める。インバウンドの推進では、インターネットやSNSなどによる積極的な情報発信やWEBを使用した商談会における誘客を図る。今後海外からの誘客ができるようになれば、海外現地での誘客営業活動と個人向け情報発信を展開し、個人、グループを中心とした誘客を推進するとともに、クルーズ船についても寄港誘致を進める。

### 政策評価調査

政策名	6 人が交流し、活力あふれるまちの創生 【まちづくり】	評価
総合計画頁	P70～79-1	B

関係部局	総務部、地域振興部、観光ブランド推進部、市民生活部、農林水産部、教育委員会
------	---------------------------------------

#### 【1 政策の概要】

人権教育や啓発などの人権施策、男女共同参画における意識向上の施策、NPO法人やまちづくり団体のサポートなど市民と協働したまちづくりの施策に取り組む。また、恵まれた食資源や食文化をいかした「食」のまちづくり、過疎化や人口減少に対する移住・定住の推進、異文化交流などの国際化の推進、市民ニーズに対応した行政サービスの充実など様々な施策によるまちづくりを推進していく。

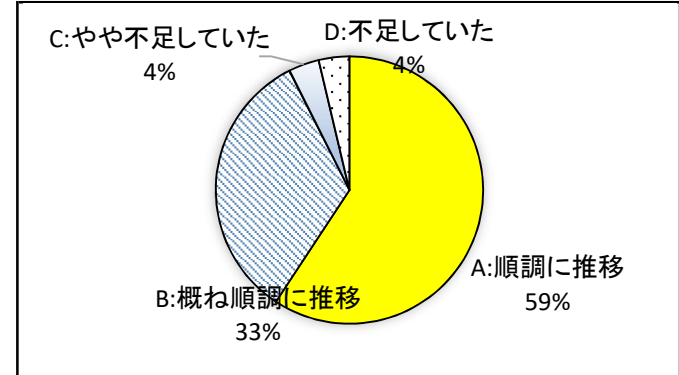
#### 【2 政策を構成する施策の評価結果】

施策名	取組評価					指標評価					総合評価
	平均	A	B	C	D	平均	A	B	C	D	
1 人権を尊重するまちづくり	A	1	2			B	1	1	1		B
2 男女共同参画のまちづくり	A	2	1			D				1	C
3 市民協働のまちづくり	C		1	1	1	D			1	1	C
4 「食」のまちづくり	A	4				A		2			A
5 移住定住の促進	A	2	1			D				1	C
6 国際化の推進	A	1	3			-					B
7 市民サービスの充実	A	5				A	3				A
8 新たな地域コミュニティの構築	A	1	1			A	1				A
合計		16	9	1	1		5	3	2	3	B

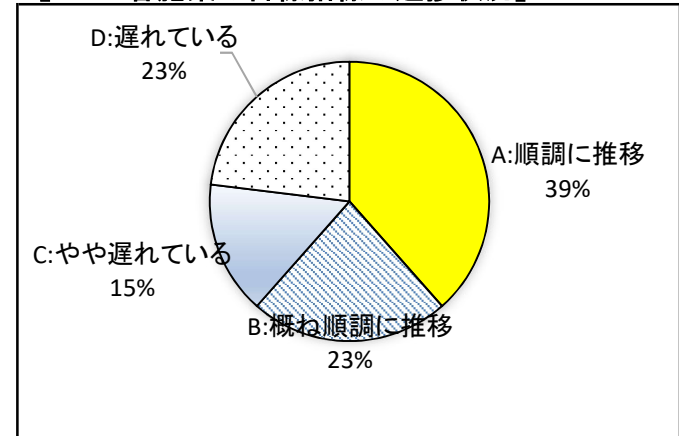
※評価の区分

A	順調	B	概ね順調	C	やや遅れている (やや不足していた)	D	遅れている (不足していた)
---	----	---	------	---	-----------------------	---	-------------------

#### 【3-1 各施策の主な取組の進捗状況】



#### 【3-2 各施策の目標指標の進捗状況】



**【4 評価が「D：不足していた」となった主な取組】**

施策名	3 市民協働のまちづくり	施策名	-
主な取組	まちづくり団体の充実	主な取組	-
≪「不足している」となった理由≫ まちづくり交流倶楽部の登録団体の中には活動を停止していた団体もあったため、全団体に対し登録継続の意思確認を行った。結果として実際活動している団体や、ホールを活用しようとする団体だけが再登録したため、登録団体数は減少しD評価となった。今後は、登録団体を支援するとともに、ホールの活用方法などを周知しながら、あらためて登録団体数を増やしていきたい。		≪「不足している」となった理由≫	

**【5 評価が「D：遅れている」となった指標】**

施策名	2 男女共同参画のまちづくり	施策名	3 市民協働のまちづくり
指標名	各種委員会、審議会等における女性委員登用率	指標名	まちづくり交流倶楽部の登録団体数（総数）
実績値	33.0% (R1実績32.2%)	目標値	40%
実績値	33団体 (R1実績102団体)	目標値	130団体
≪「遅れている」となった理由≫ 各種委員会、審議会等における女性委員登用率が、前年度と比較して0.8ポイント上昇しているが、前年度の基準値を下回っているため。		≪「遅れている」となった理由≫ まちづくり交流倶楽部の登録団体の中には活動を停止していた団体もあったため、全団体に対し登録継続の意思確認を行った。結果として実際活動している団体や、ホールを活用しようとする団体だけが再登録したため、登録団体数は減少しD評価となった。今後は、登録団体を支援するとともに、ホールの活用方法などを周知しながら、あらためて登録団体数を増やしていきたい。	

施策名	6 人が交流し、活力あふれるまちの創生	施策名	-
指標名	施策による移住者数	指標名	-
実績値	81人／年 (R1実績96人／年)	目標値	200人／年
実績値	-	目標値	-
≪「遅れている」となった理由≫ 単身での移住が多く、移住者数が伸び悩んだ。移住相談会の回数の減少やツアーの開催がコロナ禍により難しかったことなどもあり、目標指数を下回った。		≪「遅れている」となった理由≫	

## 【6 政策の今後の展開】

人権を尊重するまちづくりに向けて、学校教育の面では、様々な人権課題の解決に向け、児童生徒の人権に関する知的理解と人権感覚の涵養を図るとともに、保護者や地域と連携した取組を推進していく。生涯学習の面では、公民館活動等での人権学習会の機会を確保し、学習内容の充実に努めながら人権教育の推進を図る。人権一般の面では、全ての市民が参加しやすいよう、夜間、土日での開催やZoom等を利用したオンラインによる研修会等の開催を検討するとともに、企業・団体等に出向いて啓発を行うことも重要である。

男女共同参画のまちづくりについては、街頭啓発活動、市報・ホームページや広告等、あらゆる媒体の活用や機会を利用することにより周知・啓発活動を展開し、男女共同参画の意識浸透を図るとともに、引き続き「佐伯市審議会等委員への女性登用推進要綱」により、具体的な登用推進方を示しながら女性委員の積極的な登用を図る。また、女性活躍を推進するために活動する団体等の取組への支援を行う。

市民協働のまちづくりについては、まちづくり団体が様々な活動に取り組めるよう引き続き補助事業による支援を行う。今後のまちづくり団体等の活動を活発化するため、さいき城山桜ホールの活用の周知に努める。あわせて、市民が協働の担い手として自らが地域貢献することの意義を学ぶ企画を市民大学として実施する。

「食」のまちづくりでは、さいきオーガニック憲章を通じた新たな取組も誕生した。また、さいき城山桜ホールの食育活動室を拠点とし、食育活動やオーガニックの取組を実践する人材育成につながる事業を実施していく。有機農業について、有機JAS認証取得を目指す農業者の確保・育成、農地確保、土づくり等が課題である。また令和3年度には有機農業でのファーマーズスクール入講者が予定されているため、2年後の就農に向けてのフォローアップ体制を整備していく。

移住定住の促進については、コロナ禍によりオンラインの環境が急激に進み、移住相談もオンラインで対応できる環境は整えたが、オンライン移住ツアーなどと組み合わせた活用を検討し、利用者の増加につなげていく。また、空き家バンクの内見などをオンラインや動画で紹介できる工夫やテレワークなどに対する移住施策も検討する必要がある。

国際化の推進においては、姉妹都市との交流に加えて、ベトナムとの新たな姉妹都市締結に向けた取組に力を入れていく。また、産業分野では外国人材の受け入れ資格を有する登録支援機関や監理団体とあわせて雇用先による外国人材の受け入れ後の語学やマナー研修などを行う協議会を設立したい。また、新規輸出ルート開拓や品目などの検討を行い、台湾を中心とする東アジアや東南アジア方面への輸出に向けた取組を進める。

市民サービスの充実については、今後も市民が安全安心に暮らしていくことができるように、自治、防犯、地域安全活動等の取組を継続する。また、行政情報発信では、市報の月1回発行、全ページカラー化、制作業務（一部）の委託やライン、フェイスブック、インスタグラムのSNSツールも導入した。今後も各広報媒体での情報発信の充実及び効率・効果的な行政広報について検討していく。

新たな地域コミュニティについては、「佐伯市地域コミュニティ推進指針」に基づき、モデル地域において具体的な組織づくりを進めると共に、その他の地域においても、本取組に関する周知を図り、全地域での取組を推進していく。あわせて、令和4年度から組織づくりに着手する地域の選定を行う。活動拠点づくりについては、地区公民館の在り方の検討を行い、センター化の必要性を整理していく。センター化については、令和4年4月からの運営開始に向けて検討を進めていく。

## 政策評価調書

政策名	7 地域が輝くまちの創生 【地域活性化】	評価
総合計画頁	P80～97	B

## 【1 政策の概要】

人口減少、少子高齢化が進む中、周辺部地域に根付いてきた文化、伝統や産業の継承が難しくなっている。こうした周辺地域の課題を解決するため、それぞれの地域の特性を生かしたまちづくりを積極的に進めていく。

## 【2 政策を構成する施策の評価結果】

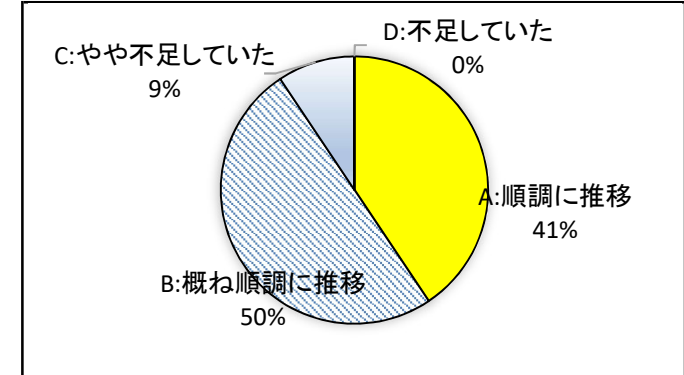
施策名	取組評価					指標評価					重プロ評価	総合評価
	平均	A	B	C	D	平均	A	B	C	D		
1 人が集い、元気が生まれ広がる、新たなまちへ～佐伯地域～	A	2	1	1		A	1				A	A
2 マグロ養殖と花の咲くまち かみうら～上浦地域～	A	2				B		1	1		A	A
3 人もまちも美しい快適居住空間のまち、弥生～弥生地域～	B		3			C			1		B	B
4 よし 最高の水あそびを 用意しよう！～本匠地域～	A	1	2			C			1		B	B
5 ユネスコエコパークを活用した持続可能な地域づくり～宇目地域～	B		3			D				1	A	B
6 人と地域がささえあい 安心と活力に満ちた里 直川～直川地域～	B	1	4			C			1		B	B
7 海に寄り添い海と生きる、安心快適な鶴見地域～鶴見地域～	B	2		1		B		1	1		B	B
8 人口増へ！米水津からの情報発信～米水津地域～	A	2	2			A	1				B	A
9 海の恵みを活かすまち蒲江～蒲江地域～	A	3	1	1		D				1	B	B
合計		13	16	3	0		2	2	5	2		B

## ※評価の区分

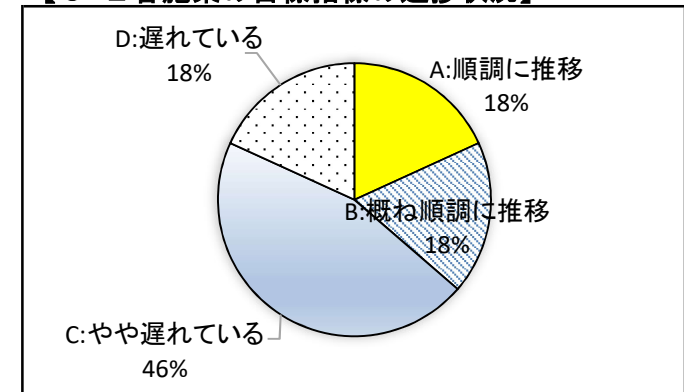
A	順調	B	概ね順調	C	やや遅れている (やや不足していた)	D	遅れている (不足していた)
---	----	---	------	---	-----------------------	---	-------------------

関係部局	地域振興部、各振興局
------	------------

## 【3-1 各施策の主な取組の進捗状況】



## 【3-2 各施策の目標指標の進捗状況】





**【4 評価が「D：不足していた」となった主な取組】**

施策名	-	施策名	-
主な取組	-	主な取組	-

**【5 評価が「D：遅れている」となった指標】**

施策名	5 ユネスコエコパークを活用した持続可能な地域づくり ～宇目地域～		施策名	9 海の恵みを活かすまち蒲江 ～蒲江地域～	
指標名	観光の要となる道の駅宇目の集客数の増加		指標名	蒲江独自の新たな観光推進による観光入込客数	
実績値	69,497人 (R1実績80,861人)	目標値	160,000人	実績値	328,698人 (R1実績410,126人)
				目標値	650,000人
≪「遅れている」となった理由≫ 平成27年の東九州道の開通により、国道326号線の交通量の減少が続いていることに加え、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の発令により、客足が遠退いたことも原因となった。			≪「遅れている」となった理由≫ 蒲江の地域資源をいかした観光メニューの開発や蒲江ブランドの情報発信等について、各種取組を実施しているところだが、大分県マリカルチャーセンターの休館及び新型コロナウイルスにより、想定を上回るほどの影響を受け、令和2年度は目標値（令和2年度）627,461人を大きく下回る入込客数となった。特に今年度は、新型コロナウイルスによるイベントの中止や縮小、飲食・宿泊施設等の休業や国の緊急事態宣言による外出自粛などの影響も大きく、昨年度の目標値616,192人及び基準値よりも大きく下がっている。		

**【6 政策の今後の展開】**

引き続き、地域コミュニティの維持に向け、地域交通の在り方や空き家等の地域課題に取り組むとともに、地域資源の活用を図る団体等へ支援を行う。また、道の駅を始めとした各地域の観光施設や自然環境を活用した交流人口・関係人口創出に取り組んでいく。
--